

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

平成13年4月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話(03)3434-0261(代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

臨時理事会の開催について

社団法人電池工業会は3月9日、東京プリンスホテルにおいて臨時理事会を開催、リサイクル法の改正に伴う新組織の設立等の審議事項の承認が行われた。

臨時理事会は安田会長が議長となり次の議案を審議した。

第1号議案 正会員入退会の件

事務局木村専務理事から、(株)東芝の代表者より、本工業会の正会員入会申込みがあった旨説明があり、原案どおり(株)東芝の正会員入会が承認された。

第2号議案 消防法施行規則の改正に伴う、認証事業の組織整備に関する件

事務局木村専務理事から、配布資料に基づき蓄電池設備認定事業及び講習事業関連法改正についての説明があった。

①名称変更に関する提案 名称「蓄電池設備認証センター」

②規程を整備することの提案 工業会全体規程の中に、認定業務に関する「運営規程」を新設する。

以上事務局の説明に対し、議案は原案どおり可決決定された。

第3号議案 資源の有効活用促進に関する提案

事務局木村専務理事から、配布資料に基づき下記4項目について提案内容の説明があった。



- ①電池回収組織(団体)の設置に関する提案
- ②組織の名称に関する提案
- ③“整備すべき工業会規程の範囲”について、規程を整備することの提案
- ④平成13年度回収団体の予算に関する提案

以上事務局の説明に対し、審議の結果

- ①電池回収組織(団体)の設置に関する提案については異議なし、
- ②組織の名称に関する提案については「小形二次電池再資源化推進センター」と名称はすること、
- ③“整備すべき工業会規程の範囲”について、規程を整備することの提案について異議なし、
- ④平成13年度回収団体の予算に関する提案は、異議がなしを各々確認4つの提案は可決決定された。

リサイクル用廃棄電池の保管と輸送に関する、 世界的な安全ガイドラインを検討

第3回TLWG会議を東京で開催

リサイクル用廃棄電池の保管と輸送に関する国際的な安全指針をつくる目的で、技術の専門家による作業部会（Trilateral Lithium Working Group）を設ける事が1999年11月、広島で行われた日欧米・三極代表者会議で決定された。

第1回をブリュッセルで、また第2回を米国アトランタで行い、本年の東京会議（2月8日）では、ほぼガイドラインの全容を確定する事ができた。

近年、台頭の目覚しいアジア地域の電池業界にも活用できるよう、世界的な共通基準となるこの安全ガイドラインは、「グリーンブック」と呼ばれ、来る6月、米国シアトルで開催する三極環境専門家会議（TWG）で承認された後、新規文書として発行される予定である。

Trilateral Lithium Working Group (TLWG) はスタート時の目的を、①保管と輸送におけるリスクの把握、②低コストでの保管と輸送方法、③安全性の高いパック設計を提案するという点においていた。

今回の東京会議では、リチウム系電池の流通状況、回収箱収集における回収率や他電池の混入状況、また実施されている安全対策や分別コストの現状並びに端子設計や安全試験の内容等について実状を整理し、ガイドラインの判断基準に役立てる事とした。

1. 主たる要点は次の通りである。

- (1) リチウム系電池の販売量は、ドイツで約220トン（99年）から430トン（2000年）と急増。日本では、99年実績で生産量の60%以上が輸出であり、地域別に見ると北米が11%、アジアが44%、欧洲には10%で、年々増えている。



正面:ガノン氏、フリッケ委員長(Europe)



右側:イングランド氏、ミラード氏、バビアック氏(USA)

(2) 回収箱による電池回収の割合は、米国で36%、日本で約10%、ドイツで40%程度である。またリチウム系電池の混入率は、日本で約10%であるが、米国は調査を開始しており半年後に結果がでる予定。

(3) 安全対策

- ・実施されている安全対策の1例として、回収時のナイロン袋がある。分別時に袋を取り出すのは手間であるが、短期的な方策として必要との判断中。
又ドイツではまだ使用していないので、問題を未然に防ぐアドバイスを考えねばならない。
- ・分別コストは、ドイツで約80米国ドル／トンであるが、米国では開封費用及び箱のゴミ処理代を含め、約400米国ドル／トンである。
- ・凹型端子設計も重要な要因である。Motorolaのセルラー部門では可能な限り、凹型設計を取り入れている。グリーンブックを完成した後、OEMとの討議案件としたい。

・安全性試験については、UL1642や、各社が行っているAbuse Testの条件把握、並びに、満充電した電池で振動やクラッシュテスト等の見極めも必要である。

・今回整理できた結果を、“Green Book for Collection & Recycling Entity”というタイトルで編集し、発行することとした。

2. 國際的な法制化への対応

- ・国連では、2001年度の計画項目として、各電池系における、製造、設計及び廃棄に関する国連勧告を制定する考えである。これはGlobal Harmonization System(GHS)委員会という名称で推進される。
- ・特に廃棄に係わる分野で、海外の政府機関が原案を検討する前に業界ガイドラインを定めて置くことは、国際的な法制化を業界主導で展開する事にも繋がり、この活動は将来を見据えた点で極めて重要な取り組みであると考える。

日本工業標準調査会 標準部会「電気技術専門委員会」の委員を 株式会社 東芝の千葉信昭氏へ委嘱

平成12年12月に工業技術院より、従来日本工業標準調査会 標準部会で電気分野の審議を行っていた「電気部会」を新たに「電気技術専門委員会」という名称で再発足し、審議内容もJIS案の審議だけでなく、IEC活動やJIS整備方針などの併せて審議できる体制に改組することになった旨の連絡と、この委員会に電池業界からも1名の委員派遣の要請がありました。

JIS関連の多々なる経験を踏まえて、(社)電池工業会では一次電池部会・IEC及び規格小委員



会の千葉信昭氏を推薦していましたが、このたび経済産業大臣より任命した旨の辞令がありました。今後の活躍を期待します。

平成13年 2月度の電池工業会活動概要

部会	2月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
そ 特 別 の 会 議	6日(火)	臨時小形二次電池部会	*改定リサイクル法の対応:運営組織の設立、費用の徴収額など承認
	28日(水)	電池副読本	*最終校正が完了。
二 次 電 池 部 会	2日(金)	用語分科会	*SBA規格「蓄電池用語」改正案の承認委員会コメントに対する回答
		PL委員会	*安全指針の最終チェック他
	6日(火)	小形鉛分科会	*制定予定のSBA技術資料用データの検討。国際会議での宿題事項。
	7日(水)	広報委員会	*今年度の活動まとめと次年度活動計画の協議
	8日(木)	小形二次・二次リサイクル合同連絡会 据置アルカリ分科会	*2月下旬開催の国際会議で表明する日本コメント内容
	14日(水)	自動車鉛分科会 自動車用電池委員会	*H13年度改正のJIS(二輪車用鉛蓄電池)の予備審議。共通部品の改良 *今年度の活動まとめと次年度活動計画の協議
	15日(木)	自動車用電池 市販小委員会	*今年度の活動まとめと次年度活動計画の協議
	16日(金)	自動車用電池 需要予測小委員会	*需要予測の精度アップに関して、専門機関への依頼を検討する
	20日(火)	据置鉛分科会 産業用電池 リサイクル分科会	*1月中旬開催の国際会議の報告。共通部品の改良、問題点の対応 *懸案事項の審議
		産業用電池 小委員会	*今年度の活動まとめと次年度活動計画の協議
	22日(木)	電気車用電池 リサイクル分科会	*懸案事項の審議
	23日(金)	自動車用電池技術サービス小委員会	*上部委員会に今年度の実績と来年度予定を報告した結果の報告と対応
	26日(月)	小形シール鉛分科会	*団体へ加入して回収する、民生用電池の定義付け
	27日(火)	自動車用電池 リサイクル分科会	*懸案事項の審議
	28日(水)	自動車用電池 直需小委員会	*今年度の活動まとめと次年度活動計画の協議
小 形 二 次 電 池 部 会	1日(木)	国土交通省(谷本氏)との会議	*全航連会議の報告と、2001年ICAO国際会議への提案要望
	7日(水)	第112回・海外環境委員会	*世界の電池規制ガイドライン、RBRCプログラムのWG活動を確認
		米国RBRC回収プログラムのセミナー(東京)	*2001年1月新プログラムの実施に関する加入手続き等の紹介
	8日(木)	第3回日欧米TLWG会議(東京)	*リチウム系廃棄電池の安全輸送に関する最終まとめを実施
	14日(水)	リチウム二次分科会 小形シール鉛分科会	*IEC規格(統合、安全、組電池)の継続審議 当日は9名もの欠席問題 *シール鉛電池のリサイクル団体対応の協議
		アルカリ分科会	*改定リサイクル法への対応:ニカド電池、ニッケル水素電池の処理費の検討
	15日(木)	日本機械輸出組合との共催・VTCP説明会	*電子機器業界33社、物流業界18社の計75名の参加で実施
	16日(金)	小形二次技術委員会 PL委員会	*各分科会報告およびアルカリ系二次電池の主査輪番性を深刻に審議後日結論 *安全表示のガイドラインの検討:二次電池との整合性など
		ニカド/ニッケル水素分科会	*IEC規格(統合、安全、組電池)の継続審議及び蓄電池用語報告と 分科会効率化検討
	20日(火)	再資源化委員会リチウムイオン分科会	*改定リサイクル法への対応:リツムイオン電池:2001年度の活動計画など
一 次 電 池 部 会	21日(水)	国連輸送規制対応・合同委員会	*東南アジア地域の説明会と5月ICAO会議への対応を検討
	23日(金)	再資源化委員会、設立準備委員会 広報委員会	*"小形二次電池回収及びリサイクルプログラムの検討など 設立準備委員会:2月8回開催" *2001年度活動予算の確認とリサイクル啓蒙資料の新規内容の検討
	9日(金)	業務委員会	*2001年度年間活動内容とスケジュールの確認
	16日(金)	調査統計小委員会	*一次電池国内仕向先区分の見直しを実施
	20日(火)	乾電池技術委員会	*小委員会報告、IEC次回の国際会議に派遣メンバー確定、リチウム小のWG組織化
	22日(木)	リチウム小委員会	*IEC国際会議(3/1)の対応を小形二次電池見解と照合し審議、次年度運営
	23日(金)	広報委員会	*2001年度各活動の分担の確認と啓蒙資料の更新内容の再確認
	26日(月)	IEC/規格小委員会	*平成12年度JIS規格制定の最終審議とIEC会議直前の国際規格対応審議
総 合	27日(火)	ガス化溶融炉見学会	*環境関連委員によりジャパンリサイクル社のガス化溶融炉の見学会を実施
	28日(水)	環境委員・環境小委員合同委員会	*乾電池再資源化研究の取り組み方、平成13年度の委員会の体制を検討
総合	22日(木)	広報総合委員会	*13年度計画と担当決定、電池副読本、バッテリー賞等を検討

業界動向

*タカラ 単三乾電池二本を電源にした簡易型ビールサーバー(注ぎ出し器)を開発、3月上旬から家庭向けに発売を開始。
(2月1日付 日経産業)

*三洋電機 デジタルスチルカメラ普及品の生産を来年度から海外にシフト、海外生産能力を年産四百万台に引き上げる。
(2月1日付 日経産業)

*日石三菱 ガソリンを燃料にした固体高分子定置式燃料電池の実証実験を2月8日から開始、実用化は2004年頃を予定中。尚、石油業界はこの他コスモ石油、出光興産も燃料電池を開発中。
(2月1日付 日経産業)

*荏原 燃料に下水処理施設で発生するガスから取り出した水素を用いた固体高分子型燃料電池の発電実験を7月から開始。実験は2002年11月末まで行われるが、将来は一般家庭と事業所向けに用途拡大を予定中。
(2月1日付 日経産業)

*松下電池工業 超小型携帯端末の駆動用に、充電式のコイン形リチウムイオン電池(230Wh/ノック)を開発、10月から量産を開始。尚数量は月50万個を予定中。
(2月1日付 日経産業、電波&日刊工業)

*松下電池工業 アルカリ乾電池購入者を対象に、2月からキャンペーン「お試しくださいこのパワーキャンペーン」を開始、当選者にはゲームボーイアドバンスが当たる。
(2月2日付 電波)

*電力中央研究所 リチウムイオン電池の劣化に関与している電解液の分解メカニズムをこの程独自に開発した解析装置を用いて関与の詳細を明らかにした。
(2月2日付 化学工業日報)

*富士写真フィルム 記録画素数を600万画素にし解像度を上げた高性能のデジタルカメラを開発、3月4日から発売しシェアの拡大を開始へ。
(2月2日付 日経&日経産業)

*経済産業省・資源エネルギー庁クリーン自動車の普及台数は、2001年度末で80万5,500台と導入目標(343万台)の四分の一以下になりそうな事、目標達成には導入補助事業の継続等の一工夫が必要な事等を発表。
(2月2日付 日刊工業)

*東芝電池 デジタル機器の復及に対応、負極の見直し等により抵抗を低減させた単三形と単四形アルカリ乾電池を開発、3月1日から発売。尚生産数量は、月2,500万個を予定中。
(2月3日付 電波)

*松下電池工業 釣り用品の新製品としてオレンジ発光ラバートップミニウキを3月から発売。
(2月3日付 電波)

*携帯端末(PDA) 米国での売れ行きが2000年は急増、販売台数は350万台と前年の2.6倍となり、販売額は10億ドルを超えた。不信のパソコンとは対象的に、コストとインターネット接続の簡便性が受け、当面高度成長との見方が多い。
(2月4日付 日経)

*2000年電池出荷 2000年の電池と電池器具の出荷実績は、数量が76億3千万個(前年比6%増)、金額が8千8百30億円(同3.3%増)と安定成長した。特に、リチウムイオン電池は3,000億円市場になつたが、マンガン乾電池は大幅に下落。
(2月5日付 化学工業日報)

*電子情報技術産業協会 パソコンの2000年国内出荷が、個人向けの伸びに支えられ1,155万台と前年比25.4%増になった。又、今年は10~15%増を予測中。
(2月5日付 日経)

*松下電池工業 立ったまま掃除ができるスティック式の浴槽みがき機「みがい太郎」を開発、3月1日から発売へ。
(2月6日付 電波)

*松下電器産業 日本語や中国語の双方で翻訳ができる音声翻訳技術を開発中、旅行会話が対象となっているが、数年後には実用化を目指す。
(2月6日付 日経産業)

*松下電池工業 体積エネルギー密度が同社従来品に比べ16%アップさせた携帯電話用角形リチウムイオン電池(370Wh/ノック)を開発、3月から量産を開始へ、尚数量は、月2,000万個を予定中。
(2月7日付 日刊工業&化学工業日報)

*ニコン 画素数547万画素の一眼レフ型のデジカメ二機種を開発、近々発売へ。
(2月7日付 日経産業)

*松下電池工業 安田社長、製品別ではなく、市場別に括ることで、開・製・販の一貫体制を構築し、市販とOEMの各市場で勝てる体質を作ること、要のマネージャーとリーダーにはマネジメント力を重視して抜擢をする事等を語る。
(2月8日付 電波)

*三洋電機 携帯電話用にCCDカメラモジュールを開発、本年末から月産50万個規模で量産出荷。
(2月8日付 化学工業日報)

*ソニー 業界初155万画素のCCDカメラを搭載したデジタルビデオカメラを開発、3月から二機種を発売へ。
(2月12日付 日経産業)

*松下電器産業 デジタルネットワーク技術の研究開発を行う新会社を北京に設立、次世代携帯電話のソフト開発に力を入れ、中国での携帯シェア拡大を狙う。
(2月8日付 日刊工業)

*日本ヒューレット・パッカード インターネット直販でパソコンを購入した顧客向けに、使用済み品の無料引き取り・再資源化サービスを2月9日から開始。費用効果をアピールする事でネット直販を拡大へ。
(2月9日付 日経)

*NKK 固体電解質型燃料電池(SOFC)で米シーメンス・ウエスティングパワーと販売提供、定置型の分散電源として2003年以降の導入を目指す。
(2月9日付 日刊工業)

*キャノン 2001年度のデジタルカメラの生産を大分工場に加えマレーシアでも行う事を発表。数量は前年の3倍増の300万台とする予定。
(2月12日付 電波)

*三洋電機 ハイブリッドカー(HEV)用に簡易型バッテリーシステムを開発、2003年を目処に量産を予定。
(2月13日付 化学工業日報)

*燃料電池車 マツダ&ダイムラークライスラー日本とホンダが燃料電池車の公道での走行テストを開始、燃料電池車の開発も実用化に向け新局面に入る事になる。
(2月14日付 日刊工業)

*三洋電機・ソフトエナジーカンパニー ハイブリッド電気自動車(HEV)や電動ハイブリッド自転車等のクリーンエナジー分野を強化、鎮岩工場をクリーンエナジー分野の主力工場に育成へ。
(2月12日付 電波)

*国土交通省 リサイクル原料の輸送の効率化を進める為、交通体系のあり方について調査を2001年度から開始する事を決める。
(2月14日付 電波)

*東芝電池 一次電池事業の拡大テンポを加速、3年後の売上規模800億円を目標に内外での新立地具体化等を急ぐ。
(2月16日付 化学工業日報)

*IBM(米) 新デザインのパソコン開発に注力、ベルト型や腕時計型等のウエアラブルタイプの商品開発に注力。
(2月16日付 電波)

*東芝 フラッシュメモリーに音声を記録するICレコーダーで、17時間40分の録音が出来る機種を開発、3月から発売開始へ。尚、ICレコーダーの需要は、ワールドワイドで拡大中。
(2月16日付 電波)

*経済産業省 1998年度の事業として実施したダイレクトメタノール燃料電池(DMFC)の技術評価報告書がまとまる。中味は単セルで0.1ワット強の出力を達成した旨になっている。自動車用に可能性も。
(2月19日付 化学工業日報)

*携帯電話 日本の携帯電話機メーカーが海外市場で攻勢を予定。東芝は欧州で2001年から販売の開始を、松下通信工業は海外での販売台数の3割増を各々計画中。
(2月19日付 日経)

*東芝電池 売り場多ヶ所展開と用途別アルカリ乾電池の定番化の推進、及びユーザーキャンペーンの実施等により、春需要の盛り上げを開始。
(2月19日付 電波)

*三徳 中国で合弁会社を設立、水素吸蔵合金等の二次電池材料を生産へ
(2月20日付 化学工業日報)

*旭化成 燃料電池用セバレータの新設備を完成、自動車メーカー等の試作ニーズへの対応を本格化へ。
(2月21日付 日刊工業)

*経済産業省 燃料電池車向け燃料でガソリン方式の推進と統一基準の作成の検討を開始。メタノール陣営からの反発が予想される。
(2月21日付 日経)

*松下電池工業 フィリップス(オランダ)との欧州での電池の合弁生産を解消、欧州二社は松下電池工業の完全子会社に。
(2月21日付 日経&日経産業)

*三洋電機 女性用エステ商品として、コスメティックシェーバー3機種と、リチウムイオン電池搭載のシェーバーの第二弾を3月1日から発売へ。
(2月21日付 電波)

*東芝電池 フェイスケア、まつげケア、ネイルケア用に小形理美容機3機種を開発、3月1日から発売へ。
(2月22日付 電波)

*三洋電機 3時間録音が可能な携帯型デジタルメモリープレーヤーを開発、3月から発売へ。
(2月22日付 電波)

*日本カーボン リチウムイオン二次電池用負極材の生産能力を大幅に引き上げ、今夏には世界最大規模の月150トン体制に。
(2月22日付 化学工業日報)

*ユアサ 2年間で50億円を投資、鉛蓄電池のアジアシフトを加速へ。
(2月23日付 化学工業日報)

*燃料電池 8兆円市場と言われる燃料電池車の燃料選定をめぐり、電機・石油・ガス・電力等のメーカーがメタノール、ガソリン、天然ガス、水素の各陣営に分かれ激しい主導権争いを展開中。
(2月23日付 日経)

*新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 燃料電池車への水素供給を目的に、天然ガス改質型と固体高分子改質型の二方式による水素ステーションを建設、今秋を目処に運用開始へ。
(2月26日付 化学工業日報)

新製品ニュース

充電式 コイン形リチウムイオン電池を開発・量産 小型情報機器の電源に対応

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、リスト型GPSや携帯端末、カード型情報機器の電源として大電流対応可能な、充電式コイン形リチウムイオン電池を初めて開発し、10月から量産します。

[特長]

1. コイン形リチウムイオン電池では初めての大電流対応
 - ・サイズは直径30mm、厚さ3.2mmのコイン形
 - ・最大連続放電電流 1CmAを実現(当社従来品のコイン形バナジウムリチウム二次電池「VL3032」では、0.1CmA*程度が最大連続放電電流の限界レベルでした)
2. 高容量140mAh(0.2CmA放電)を確保
 - ・充電式コイン形では従来比40%アップ(VL3032比)
3. サイクル寿命は約500回以上



〈特許件数〉 7件(申請中のものを含む)

デザイン新たにシリーズがさらに充実 コスメティックシェーバー3機種発売

三洋電機(株)(社長 桑野幸徳)は、女性用シェーバーを従来の家電製品ではなくコスメティック(化粧品)グッズとして位置付け、1997年より「エンジェルキス」シリーズを展開してまいりました。今回、流行のラメ入りプリズムカラーでデザインを一新し、機能も充実させた女性用フェイス、ボディー シェーバーを3機種を同時発売いたします。

[特長]

1. 光を感じさせるラメ入りプリズムカラーを採用しコスメティック(化粧品)感覚のデザインでコーディネートしたシリーズ展開
2. マユの形づくりが簡単なマユ用刃を追加したフェイスシェーバー(SVL-A12)
3. メイン刃とトリマー刃を同時に駆動にし、処理スピードをアップしたボディーシェーバー(SVL-A32,A4)

電源の電池は、SVL-A12は単四形アルカリ乾電池LR03 1個使用、SVL-A32とSVL-A4は単四形アルカリ乾電池LR03 2個使用。



高性能アルカリ乾電池 新発売

東芝電池株式会社(社長 鈴鹿芳朗)は、大型液晶画面搭載など高機能化するデジタル機器の普及拡大に対応し、アルカリ乾電池単三形、単四形の高性能品を開発。3月1日から発売します。

[特長]

新製品は、負極亜鉛粉の見直しと電解液組成の最適化などにより内部抵抗を更に低減することで、以下の特長を確保しています。

1. 単三形(LR6AG)では、東芝デジタルカメラPDR-M60(単三形4個使用)で撮影枚数が25%アップ。アルカリ1従来品で約200枚撮影可能が約250枚撮影可能に(最大電流約1A、液晶表示約0.7A、ストロボ常時発光、15秒に1回撮影)
2. 重負荷デジタルカメラ(単三形2個使用)相当での撮影枚数が約2.3倍にアップ。アルカリ1従来品で約14枚撮影可能が約33枚撮影可能に(最大電流約2A、液晶表示約1.5A、ストロボ常時発光、10秒に1回撮影)
3. 単四形(LR03AG)では、簡易型デジタルカメラ(単四形2個使用)相当での撮影枚数が約20%アップ、アルカリ1従来品で約230枚撮影可能が約280枚撮影可能に(900mAパルス放電、3秒ON、27秒OFF)



アルカリ乾電池単三形



アルカリ乾電池単四形

12月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成12年12月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	单 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比
電池・器具総合計	687,337	80,270	88%	93%	7,341,670	860,690	105%	104%
全電池合計	686,195	78,453	88%	93%	7,327,945	841,054	106%	104%
一次電池計	521,492	21,664	86%	81%	5,175,413	195,627	102%	97%
マンガン乾電池計	134,231	3,746	67%	62%	1,336,719	31,061	87%	77%
単一	23,989	1,367	58%	59%	166,570	9,082	76%	74%
単二	13,256	555	59%	60%	109,847	4,178	84%	81%
単三	68,608	1,367	70%	63%	678,025	11,950	83%	73%
その他	28,378	457	72%	76%	382,277	5,851	104%	93%
アルカリ乾電池計	201,654	11,551	84%	81%	1,641,257	91,111	101%	97%
単三	126,784	6,114	88%	85%	997,126	47,919	100%	96%
単四	40,303	2,170	75%	72%	409,880	22,179	107%	104%
その他	34,567	3,267	84%	81%	234,251	21,013	92%	91%
酸化銀電池	83,514	1,011	116%	102%	994,323	12,116	113%	104%
リチウム電池	97,755	5,088	107%	97%	1,154,855	58,992	120%	111%
その他の乾電池	4,338	268	82%	82%	48,259	2,347	97%	85%
二次電池計	164,703	56,789	95%	99%	2,152,532	645,427	114%	106%
鉛電池計	4,871	17,639	103%	110%	48,961	159,806	104%	103%
自動車用	2,884	11,722	104%	109%	25,253	91,845	103%	102%
二輪用	501	919	104%	102%	5,583	10,331	103%	95%
小形シール	1,235	1,307	96%	105%	15,426	15,382	105%	100%
その他	251	3,691	125%	114%	2,699	42,248	118%	108%
アルカリ電池計	118,635	14,175	90%	85%	1,625,728	189,977	111%	100%
完全密閉式	50,715	5,480	107%	88%	614,906	68,211	103%	89%
ニッケル水素	67,901	8,320	80%	83%	1,010,581	116,872	116%	108%
その他のアルカリ電池	19	375	95%	84%	241	4,894	105%	101%
リチウムイオン電池	41,197	24,975	110%	102%	477,843	295,644	128%	112%
器具計	1,142	1,817	70%	99%	13,725	19,636	95%	94%
携帯電灯	682	608	54%	60%	8,294	7,694	93%	91%
電池器具	460	1,209	125%	146%	5,431	11,942	97%	96%

12月度電池輸出入実績(大蔵省貿易統計)

(平成12年12月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	单 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比
全電池合計(輸 出)	333,212	38,261	99%	94%	4,014,513	457,533	115%	109%
一次電池計	192,150	4,130	103%	100%	2,174,562	47,642	111%	108%
マンガン	49,915	399	80%	80%	606,754	5,090	96%	90%
アルカリ	33,439	593	145%	126%	344,552	6,268	116%	87%
酸化銀	39,220	478	114%	103%	419,828	5,255	108%	101%
リチウム	66,409	2,589	105%	100%	747,036	29,521	125%	120%
空気亜鉛	1,787	32	68%	62%	22,991	436	106%	80%
他の一次	1,380	38	78%	56%	33,402	1,072	163%	112%
二次電池計	141,063	34,130	94%	93%	1,839,951	409,891	121%	110%
鉛蓄電池	844	1,181	110%	91%	8,935	12,596	107%	89%
ニカド	39,798	3,430	105%	84%	499,445	47,071	107%	97%
ニッケル鉄	0	1	0%	2%	988	98	8%	6%
ニッケル水素	54,884	6,733	78%	79%	819,845	96,724	117%	107%
リチウムイオン	35,539	20,245	112%	100%	372,786	224,874	150%	115%
その他の二次	9,998	2,541	110%	112%	137,952	28,528	154%	121%
全電池合計(輸 入)	44,277	4,098	99%	120%	447,506	41,711	103%	102%
一次電池計	37,079	1,323	90%	128%	372,573	10,543	95%	111%
マンガン	9,134	126	77%	62%	119,075	1,661	93%	97%
アルカリ	26,434	588	98%	109%	232,638	5,402	95%	102%
酸化銀	44	2	60%	101%	597	24	69%	81%
リチウム	689	77	31%	89%	13,408	1,043	103%	119%
空気亜鉛	88	6	165%	200%	3,519	135	160%	152%
他の一次	690	524	369%	266%	3,336	2,277	67%	151%
二次電池計	7,198	2,775	204%	117%	74,933	31,169	179%	99%
鉛蓄電池	562	1,616	133%	141%	5,733	14,056	116%	112%
ニカド	1,077	431	133%	98%	16,404	6,271	107%	108%
ニッケル鉄	0	1	2%	213%	8	15	731%	100%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の二次	5,559	726	243%	92%	52,789	10,827	246%	82%

1月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成13年1月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	466,334	57,860	88%	90%	466,334	57,860	88%	90%
全電池合計	465,478	56,367	88%	90%	465,478	56,367	88%	90%
一次電池計	327,741	10,875	91%	82%	327,741	10,875	91%	82%
マンガン乾電池計	87,315	1,765	90%	73%	87,315	1,765	90%	73%
単一	10,295	527	63%	60%	10,295	527	63%	60%
単二	5,531	197	67%	64%	5,531	197	67%	64%
単三	44,264	661	101%	86%	44,264	661	101%	86%
その他	27,225	380	94%	82%	27,225	380	94%	82%
アルカリ乾電池計	79,615	4,382	88%	88%	79,615	4,382	88%	88%
単三	51,653	2,534	97%	104%	51,653	2,534	97%	104%
単四	15,721	816	83%	83%	15,721	816	83%	83%
その他	12,241	1,032	67%	66%	12,241	1,032	67%	66%
酸化銀電池	79,987	942	109%	98%	79,987	942	109%	98%
リチウム電池	76,579	3,630	82%	79%	76,579	3,630	82%	79%
その他の乾電池	4,245	156	117%	72%	4,245	156	117%	72%
二次電池計	137,737	45,492	80%	92%	137,737	45,492	80%	92%
鉛電池計	3,812	13,302	100%	110%	3,812	13,302	100%	110%
自動車用	2,081	7,886	110%	114%	2,081	7,886	110%	114%
二輪用	386	709	96%	97%	386	709	96%	97%
小形シール	1,124	1,128	84%	91%	1,124	1,128	84%	91%
その他	221	3,579	119%	111%	221	3,579	119%	111%
アルカリ電池計	99,713	11,629	74%	73%	99,713	11,629	74%	73%
完全密閉式	43,214	4,783	91%	86%	43,214	4,783	91%	86%
ニッケル水素	56,486	6,560	64%	66%	56,486	6,560	64%	66%
その他のアルカリ電池	13	286	72%	68%	13	286	72%	68%
リチウムイオン電池	34,212	20,561	101%	95%	34,212	20,561	101%	95%
器具計	856	1,493	81%	111%	856	1,493	81%	111%
携帯電灯	477	522	62%	77%	477	522	62%	77%
電池器具	379	971	136%	143%	379	971	136%	143%

1月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成13年1月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸出)	249,356	27,562	87%	86%	249,356	27,562	87%	86%
一次電池計	147,424	3,208	98%	89%	147,424	3,208	98%	89%
マンガン	42,299	316	109%	96%	42,299	316	109%	96%
アルカリ	19,412	341	82%	75%	19,412	341	82%	75%
酸化銀	34,024	427	129%	126%	34,024	427	129%	126%
リチウム	49,032	1,984	87%	86%	49,032	1,984	87%	86%
空気亜鉛	2,266	33	118%	84%	2,266	33	118%	84%
他の一次	390	107	15%	97%	390	107	15%	97%
二次電池計	101,932	24,354	75%	86%	101,932	24,354	75%	86%
鉛蓄電池	496	686	80%	84%	496	686	80%	84%
ニカド	30,594	2,898	85%	81%	30,594	2,898	85%	81%
ニッケル鉄	201	12	>>	>>	201	12	>>	>>
ニッケル水素	42,008	5,005	66%	67%	42,008	5,005	66%	67%
リチウムイオン	22,051	13,557	93%	93%	22,051	13,557	93%	93%
その他の二次	6,583	2,197	58%	115%	6,583	2,197	58%	115%
全電池合計(輸入)	44,903	4,146	149%	111%	44,903	4,146	149%	111%
一次電池計	37,942	1,386	150%	168%	37,942	1,386	150%	168%
マンガン	11,193	165	93%	105%	11,193	165	93%	105%
アルカリ	24,199	492	214%	192%	24,199	492	214%	192%
酸化銀	418	10	839%	626%	418	10	839%	626%
リチウム	1,031	47	76%	38%	1,031	47	76%	38%
空気亜鉛	371	12	116%	97%	371	12	116%	97%
他の一次	730	659	484%	243%	730	659	484%	243%
二次電池計	6,961	2,761	144%	95%	6,961	2,761	144%	95%
鉛蓄電池	571	1,529	131%	143%	571	1,529	131%	143%
ニカド	1,438	433	95%	90%	1,438	433	95%	90%
ニッケル鉄	0	2	—	—	0	2	—	—
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の二次	4,952	797	171%	59%	4,952	797	171%	59%